

(9) 休み始めの段階における初期対応

不登校になる児童生徒は、「学校に行きたくない」と言い出す前段階から、既に子どもなりのストレスを抱えています。本人や保護者も明確な理由が分からない欠席が連続した場合はSOSではないかと疑い、危機感をもって対応します。

次のようなケースは特に注意が必要です。

- ・欠席理由があいまい。
- ・頭痛など体調不良を理由とした欠席が繰り返される。
- ・いじめや虐待など人間関係の問題が心配される。

対応①から③まで
欠席3日以内を
目途に対応します。

対応① 近況や過去の欠席状況を把握します

- クラスや部活動での最近の様子を教職員や友人から聞き取る。
- 保健室や相談室を利用していたか確認する。
- 過去の欠席状況などを確認する(不登校に限らず欠席理由を確認)。

【POINT】

- ・本人に影響を及ぼす背景に何があるのかを、様々な角度からアセスメントします。
- ・教員や友人との関係、勉強の理解度など、学校生活が背景要因にないか確認します。

対応② 本人の状況を確認します

保護者との信頼関係に
基づく情報共有が不可欠

- 保護者と連絡を取り家庭での様子を確認する。
- 本人と話すことができた場合は、心配しているという声掛けをする。

【POINT】

- ・心配する気持ちを伝え、不安に寄り添いながら、児童生徒の様子を確認します。
- ・家庭での問題が、子どもの不安や悩み、意欲低下につながることもあります。

対応③ 教育相談委員会(部会)・ケース会等を実施します

- 支援チームメンバーと情報(上記①②)を共有する。
- 教育相談委員会(部会)・ケース会議等の対応を検討する。
- 現状と今後の対応について管理職に報告する。
- 必要に応じて家庭訪問を行う(慎重に対応)。

臨機応変に
短時間で!

【POINT】

- ・家庭訪問を実施すべきか悩む場合はスクールカウンセラーに相談します。